

2016 年度ミニ企画展 第 2 期

すりもの 摺物



No.19

摺物とは・・・

摺物は、注文によって作られた非売品の版画のことをいいます。販売用の浮世絵版画とは異なり、趣味人たちが私的に楽しむために制作し、仲間内で配ったり交換したりしました。そのため、多くの摺物には採算を度外視した、当時最高水準の摺りの技術が施されました。厚手の紙に、絵具をつけずに版木を押し当てて立体感をつける「空摺り」や「きめ出し」、金銀の箔や粉末、銅や真鍮の粉を用いた「金銀摺り」や鉱物粉の雲母を使った「雲母摺り」など、細部には贅を尽くした趣向が込められています。

江戸時代の年賀状？

では、摺物はどのような場面で制作されたのでしょうか。江戸時代中期、俳諧を楽しむ趣味人たちが、自分の句に絵を組み合わせて版画にし、仲間内に配りました。これが摺物の流行のはじまりです。その後、江戸時代後期に、武士階級の趣味人や富裕な町人たちの間で狂歌が流行すると、狂歌摺物がつくれるようになります。狂歌師たちは新作を詠み、それ

に合うように絵師に依頼して絵を描かせ、趣向を競い合っって木版画にしたのです。これらは主に正月に友人間で配付、交換されたので、今年の賀状にも似ているでしょう。

江戸時代のカレンダー？

摺物のなかには、カレンダーのような仕掛けをもつものもあります。江戸時代の暦は現在とは異なる太陰太陽暦で、ひと月を 30 日の月と 29 日の月と決め、30 日の月を「大の月」、29 日の月を「小の月」と呼んでいました。この大小の月の並び方が毎年替わったため、その組み合わせを文字や記号、絵で表して摺物にし、正月用の配り物としました。これを「大小」といい、実用性を備えた摺物といえます。

さまざまな摺物

摺物にはほかに、歌舞伎役者の追善や襲名を目的としたものや、歌舞音曲のお披露目の案内、お店の宣伝を兼ねたものがあり、さまざまな用途で作られました。その多くには、縁起のよい動植物や静物、人物が、当時の人気絵師たちによって描かれており、一般に流通した浮世絵版画に負けない味わいがあります。

このミニ企画展では、町田市立国際版画美術館所蔵の摺物のうち 80 点を、前後期の展示替えで紹介します。当時の高い摺りの技術と、趣味人たちによる知的な遊び心、そしておめでたい吉祥図像あふれる摺物の世界をご堪能ください。

会期

2016 年 6 月 29 日(水)～9 月 22 日(木・祝)

※会期中展示替えがあります。

前期:6 月 29 日(水)～8 月 7 日(日)

後期:8 月 9 日(火)～9 月 22 日(木・祝)

| 前期展示 作品リスト | | | | |
|------------|-------|--------------------------|---------------------------------|---------|
| No. | 作者名 | 作品名 | 制作年 | 寸法(mm) |
| 1 | 窪俊満 | 富士の初日と松竹梅 | 寛政 11 年(1799) | 104×188 |
| 2 | 葛飾北斎 | 春駒 | 寛政 10 年(1798) | 147×247 |
| 3 | 蹄斎北馬 | 子供を背負う女と餅搗き | 文化期(1804～18) | 209×104 |
| 4 | 盈斎北岱 | 小松引 | 文化前期(1804～10) | 141×179 |
| 5 | 歌川広重 | 初荷の筆車 | 文政 4 年(1821) | 129×190 |
| 6 | 作者未詳 | きれい扇 | 寛政 12 年(1800) | 121×186 |
| 7 | 北尾重政 | 梅に短冊 | 文化 6 年(1809) | 220×91 |
| 8 | 七曲亭玉蟻 | 花鋏 | 文化期(1804～18) | 129×181 |
| 9 | 葛飾北斎 | 梅林 | 文政 3～12 年(1820～29) | 133×147 |
| 10 | 窪俊満 | 三宝の鶏と熨斗 | 享和元年(1801) | 136×181 |
| 11 | 窪俊満 | 十三匹の鼠 | 文化 13 年(1816) | 132×192 |
| 12 | 窪俊満 | 鶴と亀 | 文化期(1804～18) | 141×137 |
| 13 | 歌川国朝 | 唐子と羊 | 弘化 4 年(1847) | 102×138 |
| 14 | 一丘 | 諫鼓 | 嘉永 2 年(1849) | 164×159 |
| 15 | 北尾重政 | 龍宮の万歳を吹き出す蛤 | 寛政 8 年(1796) | 125×172 |
| 16 | 柳々居辰斎 | 猪に乗る金太郎 | 享和 3 年(1803) | 121×167 |
| 17 | 窪俊満 | かぐや姫 | 文化 3 年(1806) | 205×59 |
| 18 | 作者未詳 | お多福 | 文化 10 年(1813) | 171×121 |
| 19 | 喜多武清 | 布袋と唐子 | 文政期(1818～30) | 200×271 |
| 20 | 葛飾北斎 | 擣衣連狂歌帖 | 寛政 9 年(1797)頃 | 138×181 |
| 21 | 菱川宗理 | 布袋の根付と印籠 | 文化元年(1804) | 210×131 |
| 22 | 昇亭北寿 | 年玉の末広 | 文化 3 年(1806) | 122×174 |
| 23 | 窪俊満 | 名物革同印籠同根付 人形手金唐革・ 菖蒲革 | 文化前期(1804～10) | 132×178 |
| 24 | 作者未詳 | 鍵袋 | 文化 7 年(1810) | 182×132 |
| 25 | 喜多川月麿 | ぶりぶりと福寿草・梅の鉢 | 文化 13 年(1816) | 133×182 |
| 26 | 作者未詳 | けん玉と盃 | 文化 5 年(1808)または 文政 3 年(1820) | 105×190 |
| 27 | 菊川英山 | 算盤と麻の葉模様の布 | 文政 3 年(1820) | 92×130 |
| 28 | 勝川春亭 | 采配の図 | 文政 4 年(1821) | 196×137 |
| 29 | 柳々居辰斎 | 扇と富士の掛軸と香案 | 文政前期(1818～23) | 136×110 |
| 30 | 歌川豊国 | 時享和甲子初春相生町松詠大小 | 享和 4 年(1804) | 183×157 |

| | | | | |
|-------------------|-------|------------------|--------------------------|---------|
| 31 | 歌川豊国 | 文化十一初朔相生町松夷歌寿大小 | 文化 11 年(1814) | 189×170 |
| 32 | 歌川豊国 | 五代目市川団十郎の矢の根五郎 | 文化 7 年(1810) | 191×54 |
| 33 | 歌川豊国 | 三代目市川団之助の挿花 | 文化 10～14 年(1813～17) 頃 | 131×187 |
| 34 | 歌川豊国 | 五側役者摺物 五代目松本幸四郎 | 文化 13 年(1816)頃 | 130×180 |
| 35 | 溪斎英泉 | 声色好 | 文化 13 年(1816) | 123×188 |
| 36 | 歌川豊国 | 江戸の名物 | 文政 4 年(1821) | 136×185 |
| 37 | 歌川国貞 | 役者十二月 一月・二月 | 文政 11 年(1828)頃 | 186×256 |
| 38 | 歌川国貞 | 役者十二月 十一月・十二月 | 文政 11 年(1828)頃 | 188×256 |
| 39 | 常満 | 玉吹き | 文化 6 年(1809)か | 145×100 |
| 40 | 田原舟積 | 手のなる方へ | 寛政 6 年(1794) | 150×107 |
| 後期展示 作品リスト | | | | |
| No. | 作者名 | 作品名 | 制作年 | 寸法(mm) |
| 1 | 窪俊満 | 年始廻りと辻宝引 | 寛政後期(1794～1801) | 140×110 |
| 2 | 葛飾北斎 | 富士と三保の松原 | 文化元年(1804) | 136×140 |
| 3 | 作者未詳 | 羽根突き | 文化 11 年(1814) | 103×135 |
| 4 | 蹄斎北馬 | 兎の衝立の前の娘と子供 | 文政 2 年(1819) | 132×185 |
| 5 | 勝川春亭 | 書き初めの富士 | 文政 2～3 年(1819～20) | 222×141 |
| 6 | 窪俊満 | 福寿草と紙入れ | 寛政後期(1794～1801) | 131×134 |
| 7 | 北尾重政 | 梅図 | 寛政末～享和期(1796～ 1804) | 205×98 |
| 8 | 栄松斎長喜 | 梅下短冊を持つ美人 | 文化 5 年(1808) | 134×181 |
| 9 | 柳々居辰斎 | 桜に瓢 | 文政前期(1818～23) | 142×193 |
| 10 | 作者未詳 | 縁先の犬 | 享和 2 年(1802) | 129×180 |
| 11 | 勝川春亭 | 鶏とひよこと米俵 | 文化 10 年(1813) | 130×179 |
| 12 | 窪俊満 | 風鎮と白鼠 | 文化 13 年(1816) | 137×137 |
| 13 | 作者未詳 | 亀と煙管 | 文政 4 年(1821) | 97×137 |
| 14 | 葛飾北斎 | お多福の文読み | 享和元年(1801) | 169×189 |
| 15 | 勝川春英 | 衝立に富士を描く福祿寿 | 寛政後期～文化前期 (1796～1810) | 164×82 |
| 16 | 歌川豊広 | 朝比奈の大黒 | 文化元年(1804)頃 | 197×249 |
| 17 | 菊川英山 | 金太郎の豆蒔き | 文政初期(1818～20) | 91×128 |
| 18 | 靖斎文逋 | 高砂 | 文政 10 年(1827) | 191×121 |
| 19 | 窪俊満 | 棟上の柱 | 寛政 8 年(1796) | 127×130 |
| 20 | 作者未詳 | 鯛糸依摺物 椿の小箱と熨斗、誰袖 | 享和～文化期(1801～18) | 140×189 |
| 21 | 窪俊満 | 叶福助の年始 | 文化初期(1804～06) | 105×88 |

| | | | | |
|----|-------|---------------------------|-----------------|---------|
| 22 | 窪俊満 | 煙管と煙草入れ | 文化前期(1804~10) | 132×181 |
| 23 | 柳々居辰斎 | 馬具 | 文化7年(1810) | 135×179 |
| 24 | 窪俊満 | とさかのり | 文化期(1804~18) | 124×167 |
| 25 | 作者未詳 | 鯛糸依摺物 淡雪豆腐 | 文化期(1804~18) | 139×137 |
| 26 | 柳々居辰斎 | 永正年間何曾合 海の道十里にたらず はまくり | 文政初期(1818~20) | 138×184 |
| 27 | 菊川英山 | 引札と煙管と煙草入れ | 文政3年(1820) | 92×129 |
| 28 | 作者未詳 | 冠棚と扇 | 文政2~3年(1819~20) | 217×142 |
| 29 | 葛飾北斎 | 馬尽 馬のす | 文政5年(1822) | 209×178 |
| 30 | 古鶴堂 | 富士・鷹・茄子の扇面 | 文政10年(1827) | 150×193 |
| 31 | 勝川春英 | 題午春相生町松嘉例狂哥寿 | 寛政10年(1798) | 193×164 |
| 32 | 歌川豊国 | 文化七稔相生町松寿詠夷歌大小 | 文化7年(1810) | 199×173 |
| 33 | 窪俊満 | 雁金五人男 | 享和2年(1802) | 135×188 |
| 34 | 歌川豊国 | 五側役者摺物 七代目市川団十郎 | 文化13年(1816)頃 | 129×176 |
| 35 | 歌川豊国 | 五側役者摺物 五代目瀬川菊之丞 | 文化13年(1816)頃 | 133×184 |
| 36 | 歌川豊清 | 七代目市川団十郎の矢の根五郎 | 文政3年(1820)か | 204×86 |
| 37 | 歌川国貞 | 役者十二月 五月・六月 | 文政11年(1828)頃 | 185×257 |
| 38 | 歌川国貞 | 役者十二月 七月・八月 | 文政11年(1828)頃 | 187×258 |
| 39 | 葛飾北斎 | お多福面と福笹 | 文化10年(1813) | 62×92 |
| 40 | 作者未詳 | 狂言 恵方詣 | 享和4年(1804) | 149×184 |

畦地梅太郎コーナー

- 1 日光高原 1940年 木版多色 300×451mm
- 2 虫を追ひかける 1945年頃 木版多色 136×112mm
- 3 山にむかう 1957年 木版多色 412×293mm
- 4 湯き 1980年 木版多色 286×394mm

次回予告

～まちだゆかりの作家～
松本旻

9月24日(土)～12月25日(日)

2016年6月29日発行 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1 <http://hanga-museum.jp/>